

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

豊かで住みやすい沖縄県になるために、私たちの知らないところで行政や関係組織によつてさまざまな会議が開催されています。先日、沖縄県地方のバリアフリー推進連絡会議に、知的障がい者組織の者として出席しました。この会議は、航空機を除く県内交通機関の施設設置管理者や行政、障がい者団体などが集つて開催されます。

緊密な連携の下に必要な事項の検討、情報交換などを行い、高齢者、障がい者だけではなく、全ての県民が暮らしやすい街づくりを積極的に行うためにバリアフリー施策を推進することを目的としています。通勤や通学あるいは余暇利用など交通機関は生活必需品であり、依存度はとても高く、便宜性や安全性を求めている、誰もが強く持っています。

過日、東京で視覚障がいのある方がホームに転落して死亡するという痛ましい事故が起きました。本来なら盲導犬が線路側を歩くそうですが、事故当時は逆になっていたそうです。データによると駅を利用する一般客のうち、ホームに転落した経験のある人は

## 全てのの人に住みやすい街を

4%、視覚障がいのある人は約37%だそうです。全駅に可動式ホームドアを設置している沖縄モノレールの安全対応は十分評価されます。

車いすの絵が描かれ通常「車いすマーク」と呼ばれるものは正確には「国際シンボルマーク」で、障がいのある人にとつて住みやすい街づくりの推進を目的に、1969年に国際リハビリテーション協会により採択されています。このマークは、全ての障がい者を対象としたもので、特に車いすを利用する障がい者を限定し、使用されるものではありません。その用途はあらゆる障がいのある人々が利用できる駅や病院、商業施設などの建築物や施設であることを示す世界共通のマークで、駐車場もその一つなのです。

しかし残念ながら、「車いすマーク」の付いた駐車場のトラブルが多発しています。悪意のある人の駐車により本来必要としている人が駐車できないかたり、車いすを使用しない障がいのある方が駐車場の係員から利用を断られたりする問題が発生し、障がいのある方々から苦情、訴えが相次いでいます。他人への悪影響を考慮できない行動は、共生社会に相反します。各個人が見えない相手に温かい意識を持てる共生社会を目指していきたいですね。